



平成12年11月8日  
日本原子力発電株式会社

### 東海第二発電所新燃料の輸送について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉：定格出力110万キロワット）は、昨日、下記のとおり新燃料を受け入れました。

#### 記

##### 1. 輸送年月日

平成12年11月8日 1時00分 原子燃料工業株式会社 熊取事業所 発  
(大阪府泉南郡熊取町)

平成12年11月8日 7時00分 敦賀発電所 着

##### 2. 輸送数量等

新燃料集合体 32体（うち20体はガドリニア入り燃料集合体）  
輸送容器 16個

##### 3. 輸送物の種類

A型核分裂性輸送物

##### 4. 輸送方法

陸上輸送

以上

---

参 考 輸送における安全性について  
別 添 A型核分裂性輸送物の安全基準

## 輸送における安全性について

### 1. 輸送物の種類

A型核分裂性輸送物

### 2. 輸送容器の概要

型式：NF I－V型

形状：円筒形

寸法：長さ約5m、外径約1m

重量：約3.7トン（輸送容器だけで約2.4トン）

材質：ステンレス製

### 3. 輸送物の安全確認

本輸送物については、別添1に示す国の安全基準を満たすことを、国の指定確認機関である（財）原子力安全技術センターにより確認されたものです。

### 4. 輸送上の安全対策

輸送にあたっては、車両等への積付け・標識等、輸送上の十分な安全対策を実施しています。

なお、万一緊急の事態が生じた場合にも、最寄りの消防・警察および科学技術庁等に連絡するとともに、適切な措置をとることとしており、十分な安全対策を講じています

---

<別 添>

### A型核分裂性輸送物の安全基準

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」第59条の2に基づき、国が定めている、『A型核分裂性輸送物』に係わる技術上の基準の主なものは、以下のとおりである。

(1) 線量当量率

表面で 2.0ミリシーベルト／時以下

表面から1m離れた位置で、0.1ミリシーベルト／時以下

(2) 表面汚染密度

$\alpha$ 線を放出する放射性物質の場合、0.4ベクレル／ $\text{cm}^2$ 以下

$\alpha$ 線を放出しない放射性物質の場合、4.0ベクレル／ $\text{cm}^2$ 以下

また、A型核分裂性輸送物の試験条件には、

(1) 一般の試験条件

水の吹きつけ試験、自由落下試験、圧縮試験、貫通試験

(2) 特別の試験条件

9m落下試験、棒上の1m落下試験、耐火試験、浸漬試験

があり、これらの厳しい諸条件下においても、容器の健全性を維持し、臨界の防止を確保するよう、法令の基準値を満足することとなっている。

以上